

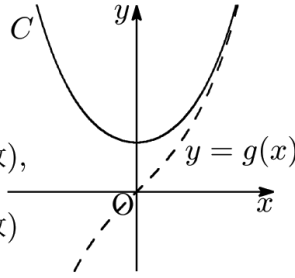
数ⅢC 頻出の曲線

**A** カテナリー

$$C: y = \frac{e^x + e^{-x}}{2}$$

$$f(x) = \frac{e^x + e^{-x}}{2} \text{ (偶関数)}$$

$$g(x) = \frac{e^x - e^{-x}}{2} \text{ (奇関数)}$$



とおくと

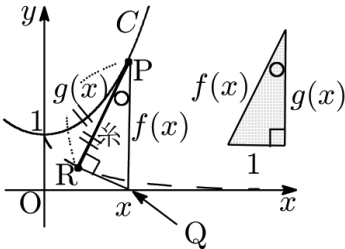
$$f'(x) = g(x), g'(x) = f(x),$$

$$f(x)^2 - g(x)^2 = 1.$$

- $C$  の  $0 \leq x \leq a$  ( $a > 0$ ) の部分の弧長は、上記より

$$\begin{aligned} \int_0^a \sqrt{1+f'(x)^2} dx &= \int_0^a \sqrt{1+g(x)^2} dx \\ &= \int_0^a \sqrt{f(x)^2} dx = \int_0^a f(x) dx = g(a). \end{aligned}$$

- $C$  の  $x \geq 0$  の部分に巻き付けられた糸を、点  $(0, 1)$  のところからピンと張った状態で点  $P(x, f(x))$  までほどこいていったとき、



$Q(x, 0)$ , 糸の先端を  $R$  とする.  $PQ = f(x)$ ,

$PR = g(x)$  より三角形  $PQR$  は上図網掛け三角形 (斜辺の傾きは  $g(x) = f'(x)$ ) と合同である. よって

$$\angle PRQ = 90^\circ, RQ = 1 \text{ (一定)}.$$

- $y = \frac{e^x - e^{-x}}{2}$  を  $x$  について解くと

$$x = \log(y + \sqrt{y^2 + 1}),$$

$$\frac{dx}{dy} = \frac{1}{y + \sqrt{y^2 + 1}} \cdot \left(1 + \frac{2y}{2\sqrt{y^2 + 1}}\right) = \frac{1}{\sqrt{y^2 + 1}}$$

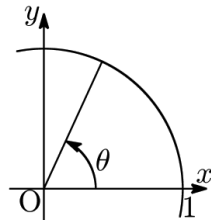
**B** 円 (楕円), 双曲線

円  $C: x^2 + y^2 = 1$ , 双曲線  $H: x^2 - y^2 = 1$  について.

- パラメタ表示すると

$$C: \begin{cases} x = \cos \theta \\ y = \sin \theta \end{cases}$$

$$H: \begin{cases} x = \frac{1}{\cos \theta} \\ y = \tan \theta \end{cases} \cdot \left(1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}\right)$$



<注>

$$\text{楕円 } E: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$$

$$\text{双曲線 } H': \frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1$$

上の点は、それぞれ

$$x = a \sin \theta, y = b \cos \theta \text{ (}\theta \text{は偏角ではない!)}$$

$$x = \frac{a}{\cos \theta}, y = b \tan \theta$$

とパラメタ表示できる. なので,  $E, H'$  上の点を、それぞれ

$$(a\alpha, b\beta) \text{ (ただし } \alpha^2 + \beta^2 = 1),$$

$$(a\alpha, b\beta) \text{ (ただし } \alpha^2 - \beta^2 = 1)$$

と表す手法がよく用いられる.

また,  $H$  は

$$x = \frac{1}{2} \left(t + \frac{1}{t}\right), y = \frac{1}{2} \left(t - \frac{1}{t}\right)$$

とも表せる. さらに  $H$  の  $x \geq 1$  の部分は, **A** の  $f(x), g(x)$  を用いて

$$x = f(x), y = g(x)$$

と表せる.

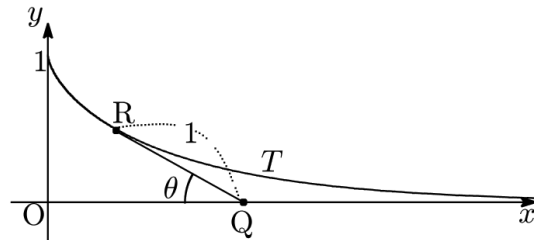
- $C, H$  の  $y \geq 0$  の部分は、それぞれ関数

$$y = \sqrt{1-x^2}, y = \sqrt{x^2-1}$$

のグラフ.

**C** トラクトリクス (牽引曲線)

$x$  軸上を正の向きに動く点  $Q$  と  $xy$  平面上を動く点  $R$  があり、それぞれ点  $(0, 0), (0, 1)$  を同時に出発する. 各時刻において、つねに  $RQ = 1$  であり  $R$  はベクトル  $\vec{RQ}$  の向きに進むとする. このときの  $R$  の軌跡  $T$ .



- (導くのは容易ではないが)  $T$  の方程式は

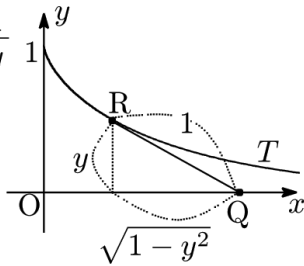
$$x = -\sqrt{1-y^2} + \log \frac{1 + \sqrt{1-y^2}}{y}.$$

- $T: x = -\sqrt{1-y^2} + \log(1 + \sqrt{1-y^2}) - \log y$

を用いると

$$\begin{aligned} \frac{dx}{dy} &= \dots = \frac{y}{1 + \sqrt{1-y^2}} - \frac{1}{y} \\ &= \frac{1 - \sqrt{1-y^2}}{y} - \frac{1}{y} \\ &= -\frac{\sqrt{1-y^2}}{y}. \end{aligned}$$

よって確かに  $RQ = 1$  が成り立つことがわかる。

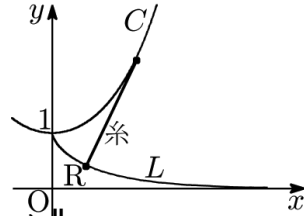


- 直線 RQ と  $x$  軸のなす角  $\theta$  を用いて

$$L: \begin{cases} x = -\cos\theta - \log\left(\tan\frac{\theta}{2}\right), \\ y = \sin\theta \end{cases}$$

とパラメタ表示できる。

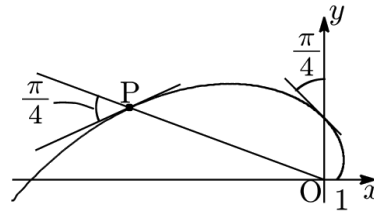
- **A**における糸の先端 R の軌跡は  $L$  と一致する。



**D** 等角らせん (対数らせん)

原点を極とし、 $x$  軸の正の向きを始線とする極座標における極方程式は

$$L: r = e^\theta.$$



- パラメタ表示すると

$$\begin{cases} x = e^\theta \cos\theta, \\ y = e^\theta \sin\theta. \end{cases}$$

- $L$  上の任意の点  $P$  について、 $P$  における接線と直線  $OP$  となす角はつねに  $\frac{\pi}{4}$  (一定) である。

**E** アステロイド

$$A: \begin{cases} x = \cos^3\theta, \\ y = \sin^3\theta. \end{cases}$$

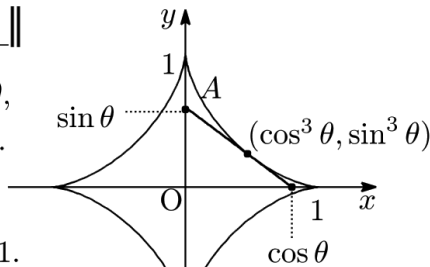
- 方程式は

$$x^{\frac{2}{3}} + y^{\frac{2}{3}} = 1.$$

- 点  $(\cos^3\theta, \sin^3\theta)$  における接線が  $x$  軸、 $y$  軸によって切り取られる線分の長さは

$$\sqrt{\cos^2\theta + \sin^2\theta} = 1 \text{ (一定).}$$

- **K** 「外&内サイクロイド ( $a = -\frac{1}{4}$  のとき)」 と同一な曲線。



○ 右図の面積  $S$ 、体積  $V$  は

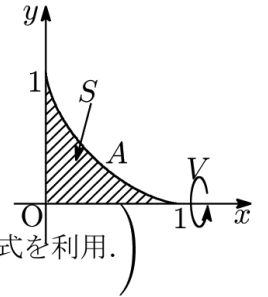
$$S = \dots$$

$$= 3 \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\sin^4\theta - \sin^6\theta) d\theta$$

$$\left( \rightarrow \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n\theta d\theta \text{ の漸化式を利用.} \right)$$

$$V = \dots = 3\pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \cos^2\theta)^3 \cos^2\theta \sin\theta d\theta.$$

( $\rightarrow$  置換積分)

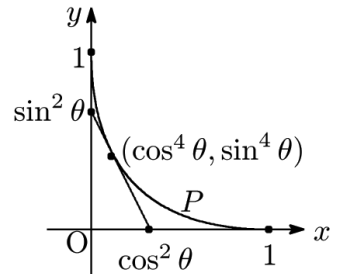


**F** 放物線 (の一部)

$$P: \sqrt{x} + \sqrt{y} = 1$$

- パラメタ表示すると

$$\begin{cases} x = \cos^4\theta, \\ y = \sin^4\theta. \end{cases}$$



- 点  $(\cos^4\theta, \sin^4\theta)$  における接線と  $x$  軸、 $y$  軸との交点をそれぞれ  $A$ 、 $B$  とすると

$$OA + OB = \cos^2\theta + \sin^2\theta = 1 \text{ (一定).}$$

- $P$  を原点のまわりに  $45^\circ$  だけ回転させた曲線の方程式は

$$y = \frac{1}{\sqrt{2}}x^2 + \frac{1}{2\sqrt{2}} \left( -\frac{1}{\sqrt{2}} \leq x \leq \frac{1}{\sqrt{2}} \right).$$

よって  $P$  は放物線の一部である。

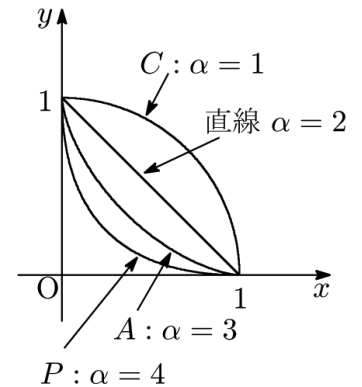
<参考>

**B**, **E**, **F** より、曲線

$$\begin{cases} x = \cos^\alpha\theta \\ y = \sin^\alpha\theta \end{cases}$$

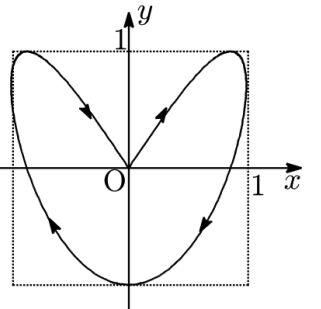
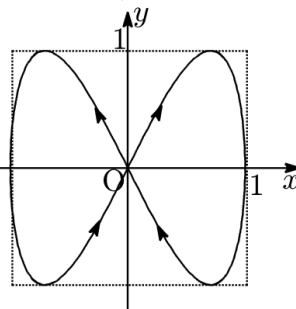
$$\left( 0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2} \right)$$

は、 $\alpha$  の値に応じて右図のようになる。



**G** リサージュ曲

$$L: \begin{cases} x = \sin at, \\ y = \sin bt. \end{cases} \quad (a, b \in \mathbb{Q})$$

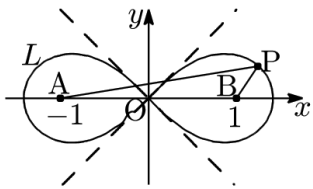


$$\left( a = 1, b = 2, \right. \\ \left. 0 \leq \theta \leq 2\pi \right)$$

$$\left( a = 2, b = 3, \right. \\ \left. 0 \leq \theta \leq \pi \right)$$

**H** レムニスケイト

2点  $A(-a, 0)$ ,  $B(a, 0)$  ( $a$  は正の定数) に到る距離の積が  $a^2$  となる点  $P$ , すなわち  $AP \cdot BP = a^2$  をみたす点  $P$  の軌跡  $L$ .



○  $L$  の方程式は

$$(x^2 + y^2)^2 = 2a^2(x^2 - y^2).$$

○ 原点を極として  $x$  軸の正の向きを始線とする極座標において,  $L$  の極方程式は

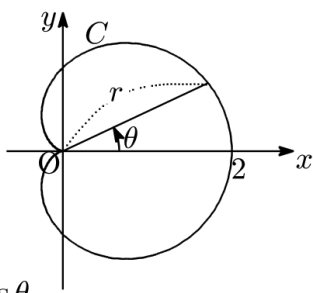
$$r = a\sqrt{2 \cos 2\theta}.$$

**I** カージオイド

$$C: r = 1 + \cos \theta$$

○  $-\pi \leq \theta \leq 0$  の部分と

$0 \leq \theta \leq \pi$  の部分は  $x$  軸に関して対称.



○ パラメータ表示すると

$$\begin{cases} x = (1 + \cos \theta) \cos \theta, \\ y = (1 + \cos \theta) \sin \theta. \end{cases}$$

$$\frac{dx}{d\theta} = -\sin \theta - \sin 2\theta = 2 \cos \frac{\theta}{2} \left( -\sin \frac{3\theta}{2} \right),$$

$$\frac{dy}{d\theta} = \cos \theta + \cos 2\theta = 2 \cos \frac{\theta}{2} \cdot \cos \frac{3\theta}{2}$$

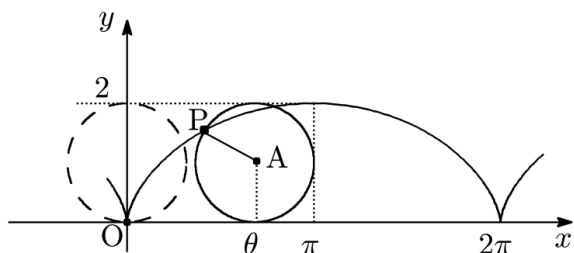
により,  $0 \leq \theta \leq \pi$  における  $x, y$  の増減がわかる.

$$\vec{v} := \begin{pmatrix} dx/d\theta \\ dy/d\theta \end{pmatrix} = 2 \cos \frac{\theta}{2} \begin{pmatrix} -\sin \frac{3\theta}{2} \\ \cos \frac{3\theta}{2} \end{pmatrix}$$

より  $|\vec{v}| = 2 \left| \cos \frac{\theta}{2} \right|$  だから, 弧長が求まる.

○ **K** 「外&内サイクロイド ( $a=1$  のとき)」と相似な曲線. また, **L** 「リマソン ( $a=0$  のとき)」と同一な曲線.

**J** サイクロイド



平らな地面を, 中心  $A$  半径  $1$  のタイヤが「滑ることなく」転がるとき, タイヤの外周上に固定された点  $P$  が描く曲線.

○ 接点を  $(\theta, 0)$  とする.  $\theta = 0$  のとき原点にあった  $P$  の座標は

$$\begin{cases} x = \theta - \sin \theta, \\ y = 1 - \cos \theta. \end{cases}$$

$$\frac{dx}{d\theta} = 1 - \cos \theta = 2 \sin^2 \frac{\theta}{2},$$

$$\frac{dy}{d\theta} = \sin \theta = 2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2}.$$

$$\therefore \vec{v} := \begin{pmatrix} dx/d\theta \\ dy/d\theta \end{pmatrix}$$

$$= 2 \sin \frac{\theta}{2} \begin{pmatrix} \sin \frac{\theta}{2} \\ \cos \frac{\theta}{2} \end{pmatrix}.$$

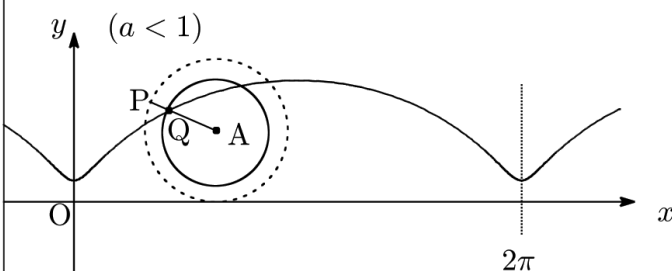
よって  $|\vec{v}| = 2 \left| \sin \frac{\theta}{2} \right|$  だから, 弧長が求まる.

○  $\theta$  を時刻とみれば (つまり, タイヤが等速で転がるなら),  $\theta = 2n\pi$  ( $n \in \mathbb{Z}$ ) のとき  $|\vec{v}| = 0$ . すなわち  $P$  が地面に触れる瞬間, 速さが  $0$  になる.

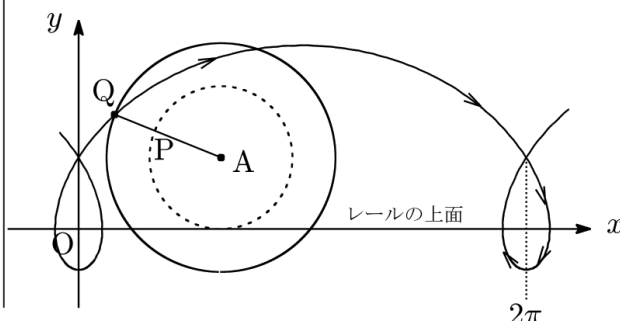
〈参考〉タイヤが転がるとき, 半直線  $AP$  上に固定された点で  $AQ = a$  ( $a \neq 1$ ) をみたす点  $Q$  が描く軌跡を「トロコイド」という. 接点が  $(\theta, 0)$  のときの  $Q$  の座標は

$$\begin{cases} x = \theta - a \sin \theta, \\ y = 1 - a \cos \theta \end{cases}$$

$a < 1$  のとき,  $Q$  はタイヤの外周より内側にあり, 次図のように動く.



$a > 1$  のとき,  $Q$  はタイヤの外周より外側にある (電車の車輪のうちレールに触れる部分より外側の点をイメージ).  $Q$  は次図のように“ループ”を描き,  $\frac{dx}{d\theta} = 1 - a \cos \theta = y$  だからレールの上面 (地面) より下に“めり込んだ”とき, 電車の進行方向とは逆向きに進む.



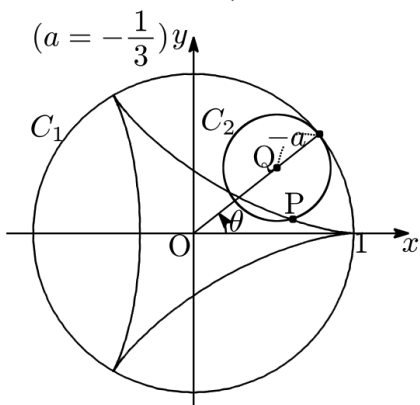
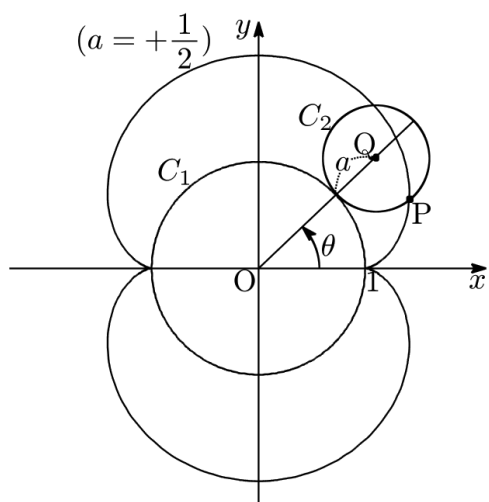
**K** 外&内サイクロイド

半径1の固定円  $C_1$  のまわりを、 $Q$  を中心とする半径  $|a|$  の円  $C_2$  が「滑ることなく」転がるとき、 $C_2$  上に固定された1点  $P$  が描く軌跡。

- $Q$  の偏角を  $\theta$  とすると、 $\theta = 0$  のとき  $(1, 0)$  にあった点  $P$  の座標は

$$\begin{cases} x = (1+a)\cos\theta - a\cos\left(1 + \frac{1}{a}\right)\theta, \\ y = (1+a)\sin\theta - a\sin\left(1 + \frac{1}{a}\right)\theta. \end{cases}$$

ここに、 $C_2$  が  $C_1$  に外接するなら  $a$  は正、内接するなら  $a$  は負の値であり、それぞれの場合の  $P$  の軌跡を「外サイクロイド」、「内サイクロイド」という。



- $\frac{dx}{d\theta} = (1+a) \left\{ -\sin\theta + \sin\left(1 + \frac{1}{a}\right)\theta \right\}$   
 $= (1+a) \cdot 2\cos\left(1 + \frac{1}{2a}\right)\theta \cdot \sin\frac{\theta}{2a},$   
 $\frac{dy}{d\theta} = (1+a) \left\{ \cos\theta - \cos\left(1 + \frac{1}{a}\right)\theta \right\}$   
 $= (1+a) \cdot 2\sin\left(1 + \frac{1}{2a}\right)\theta \cdot \sin\frac{\theta}{2a}.$

$$\therefore \vec{v} := \begin{pmatrix} dx/d\theta \\ dy/d\theta \end{pmatrix}$$

$$= 2(1+a)\sin\frac{\theta}{2a} \begin{pmatrix} \cos\left(1 + \frac{1}{2a}\right)\theta \\ \sin\left(1 + \frac{1}{2a}\right)\theta \end{pmatrix}.$$

よって  $|\vec{v}| = 2(1+a)\left|\sin\frac{\theta}{2a}\right|$  だから、弧長が求まる。

- $a = +1$  のとき、**I** 「カージオイド」と相似な曲線となる。

- $a = -\frac{1}{4}$  のとき

$$\begin{aligned} x &= \frac{3}{4}\cos\theta + \frac{1}{4}\cos(-3\theta) \\ &= \frac{1}{4}(3\cos\theta + 4\cos^3\theta - 3\cos\theta) = \cos^3\theta. \end{aligned}$$

同様にして  $y = \sin^3\theta$  だから、**E** 「アステロイド」と同一な曲線となる。

**L** 円の垂足曲線：リマソン

中心  $(1,0)$  半径1の円周上の点  $P(1+\cos\theta, \sin\theta)$  における接線に、定点  $A(a, 0)$  ( $a < 1$ ) から下ろした垂線の足を  $Q$  として、 $P$  が円周上を動くときの  $Q$  の軌跡  $L$ 。

- $\vec{AQ}$  は、 $\vec{AP}$  の

$\vec{v} := \begin{pmatrix} \cos\theta \\ \sin\theta \end{pmatrix}$  への正射影

ベクトルだから

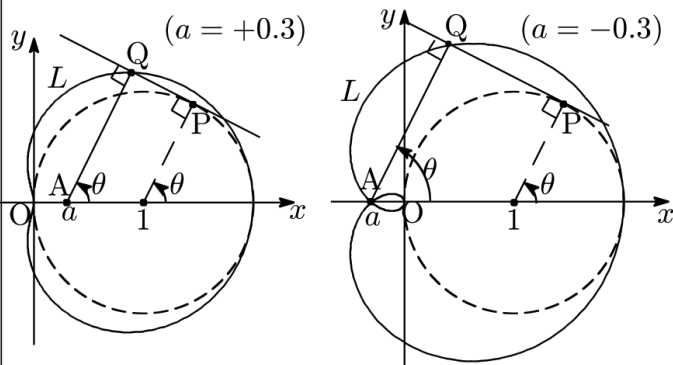
$$\vec{AQ} = \frac{\vec{AP} \cdot \vec{v}}{|\vec{v}|^2} \vec{v}.$$

$$= \{1 + (1-a)\cos\theta\} \begin{pmatrix} \cos\theta \\ \sin\theta \end{pmatrix}.$$

- つまり、 $A$  を極として  $x$  軸の正の向きを始線とする極座標において、 $L$  の極方程式は

$$r = 1 + (1-a)\cos\theta.$$

- $a$  の符号に応じて、 $L$  の概形は次図のように変化する。(  $a < 0$  のときは“ループ”ができる。 )



- $a = 0$  のとき、 $L$  は **I** 「カージオイド」と同一な曲線。